

# GIGAスクールが 構想から現実に

2021年度からの教育委員会の役割は、地域の教育環境をつくる  
コーディネーターになります。しかし、新たな課題が予想されます。

一人一台端末といっても保管庫に入れられていて使いにくい(教員)

子どもに自由に使わせたら大変なことになるのでは(教員)

旗を振っても学校現場がついてこない(行政)

働き方も変えられるって本当?(教員)

今まで通りじゃダメなの?(みんな)

調べ物にしか使えない(児童・生徒)

地域の教育環境の個別最適化と  
全体最適化を同時に実現する  
『エデュネコ!』



## どちらを選びますか？

ピアノ化



PCやタブレットが特定のときにだけ使う  
ピアノカのような存在になります。

協働化・社会化に対応できません

旧来型にとどまります。

or

ネットワーク  
文具



PCやタブレットが日常的に使える文具と  
相互理解ツールを兼ねた存在になります。

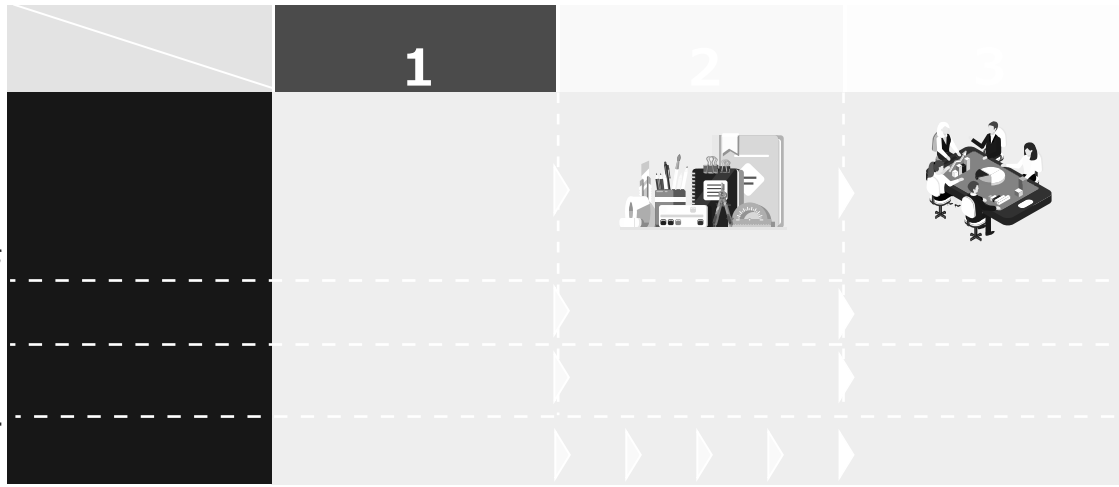
個別化・協働化・社会化に対応できます

本当の「これから」に  
シフトできます。

シフトを実現する方法『エデュネコ!』があります。>>>

従来のPC、タブレット、ネットワーク環境は必要な時だけ使う道具としての位置づけでした。しかし、ITツールの力を最大限に活用するためには、日常づかいの文具としての位置づけと、関係者全員の認識の共有が不可欠です。

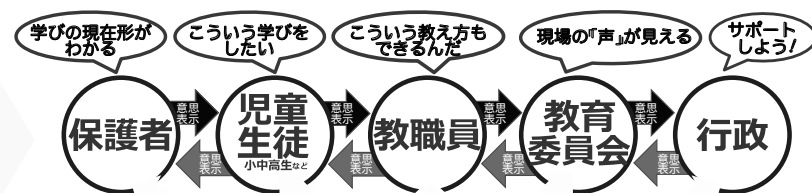
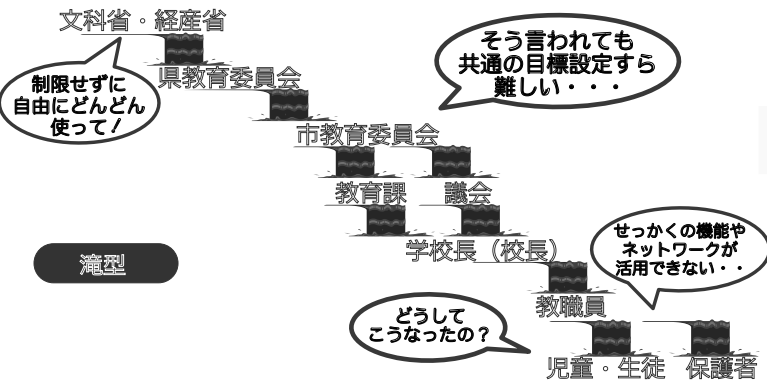
そのために、地域でどのような教育環境を目指すのか、そこにIT環境がどのように位置づけられるか、共通ビジョンと目標の確立、そして共有を行うコミュニケーションが不可欠です。この確立と共有、そして改善を並走サポート、コンサルも合わせて実現するのが、『エデュネコ』です。



「J《、）硯@it...U°の；《、）°だろてずれだ争んほ漸て細勾ごとゝみご

## 新しい教育環境には滝型から水平型への転換が必要

ビジョンと目標の確立と共有には、地域ごとの教育行政にコーディネート力が求められます。そこには、従来の滝型では対応が困難な共通の情報（データやファクト）を踏まえながら意思表示し合う水平型コミュニケーションが必要です。この構造は、コロナ以降の社会に対応する教育環境の構築にも有効です。



滝型

水平型



その地域の実情、潜在的可能性を踏まえた目標設定と共有  
“誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現”

## 『エデュネコ』で、できること

移り変わる現場の声を即時適切に反映できる授業づくり、学校づくり

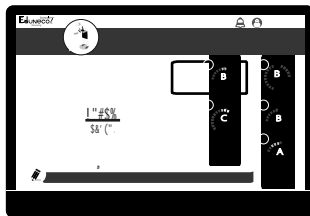
地域の一大行事運動会について最新の動向やデータに基づく意見を全員が自由に有意義なものに

教員の力を無駄使いしない働き方改革

市民から議員、若者から年長者まで立場に関係なく誰もがデータやファクトを踏まえて、学校を核とした地域づくりの当事者として意思表示できる

教育の大転換期であるGIGAスクールに対応するため地域の全ての人々の意思を集約した地域教育のビジョンを確立、共有したい!

回答者が回答を通じて知り、学び、考えた結果を回答者同士が参照できることで、立場に関わらない相互理解を実現する特許取得のコミュニケーションモデル『ポリネコ!』を『エデュネコ!』に応用。



『エデュネコ』では、並走型コンサルテーションと現場サポートも同時に提供。水平型コミュニケーションを成功に導きます。



サポートコンサル実績

\*マニフェスト大賞最優秀コミュニケーション戦略賞受賞

お問い合わせ

合同会社 先生の幸せ研究所 info@imetore.com  
共同開発: 株式会社ハンマーバード www.hammerbird.jp

03-4405-0100